

自宅から歩いて行ける距離に動物園があるので、年に数回散歩がてら出かけている。大人になってなぜ動物園に行くのか、かわいい動物に癒しを求めに行くためもあるが、多様な動物に触れて、種としてのヒトや社会的存在としての人間を、自然界の中で見直してみる機会としての意味がある。若いときからいちばん長くいるのは類人猿舎で、同じ霊長目としての仲間意識がそうさせているのであろう。この頃は動物の体のつくりと動きについて、ヒトとの違いに注目して、すなわち“比較運動学的”視点で観察している。巨体のゴリラも移動時は、体幹を前傾させて屈曲した手指の背側を床に着けて歩いており（ナックルウォーク）、ヒトの直立二足歩行とはほど遠い。ヒトでは接地面が小さい2本の脚で直立して、脳の詰まった重い頭部を地面から離れた高い場所で常に適切な位置に保持している。これは実は大変なことである。筋と骨格の構造面だけでなく、視覚、平衡覚および固有感覚からの入力の中核で統合して、それぞれの筋へ適切な出力を絶え間なく行い、いかなる姿勢においても頭位を安定して保持している。その中でヒトの“首”は、まさに大きな重荷を背負わされており、そこは弱点にもなっている。

さて本号の特集である“首下がり”は、3年前にも本誌に取り上げられたが、超高齢化社会で注目や関心が高まり、認識や理解も当時より進んでいることがよくわかる。われわれ神経内科医は神経筋疾患のみかたで、頸部局所の異常にのみ注目する傾向が強い。一方、整形外科領域では全脊柱アライメントに注目して病態や治療を考えており、そのみかたの違い（文化の違い）に大いに刺激を受けた。本誌の特色である「異文化交流」となる大変よい企画となった。神経内科医にはなじみの薄い脊柱アライメントの計測パラメータがたくさん出てくるが、いわんとするところはよく理解でき大変勉強させられた。高齢者の姿勢異常や起立・歩行機能をみるプロである神経内科医も、全脊柱アライメントはもっと注目すべき視点である。個人的には、慢性の首下がりや腰曲がりに続発して生じる脊柱起立筋の変性についても注目して、ぜひ一緒に評価してもらいたい（通常のMRIで観察できる）。筋が収縮しながら伸長される現象は遠心性収縮と呼ばれ、筋の易疲労性や易損性が強くなるとされ、首下がりや腰曲がりの増悪因子となる。そのような2次性のミオパチーが進行する前段階で、姿勢保持の治療やリハビリテーションなどの対処が求められよう。

“首下がり”といえは、あの長い首のキリンは大丈夫なのかと心配になる。また動物園に行ってみてじっくりと観察してみたい。

（亀山 隆）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素磨 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 31 No. 12
(2018 年 12 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価（本体 2,300 円＋税）

（配送料別）

年ごめ予約購読料 30,700 円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2018,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail : info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。